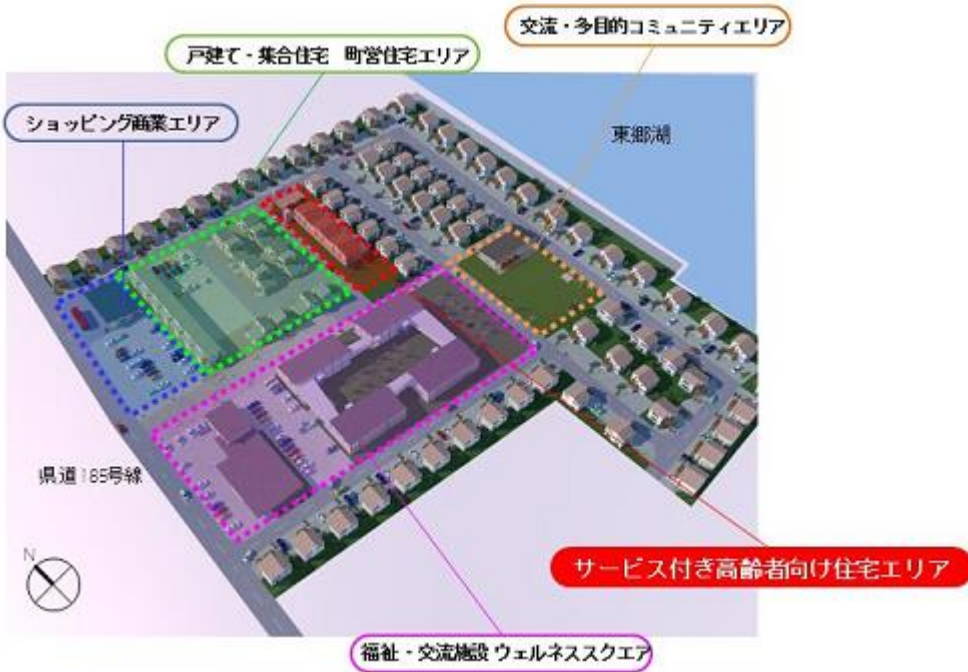


レークサイド・ヴィレッジゆりはま
サービス付き高齢者向け住宅整備におけるコンセプト 概要

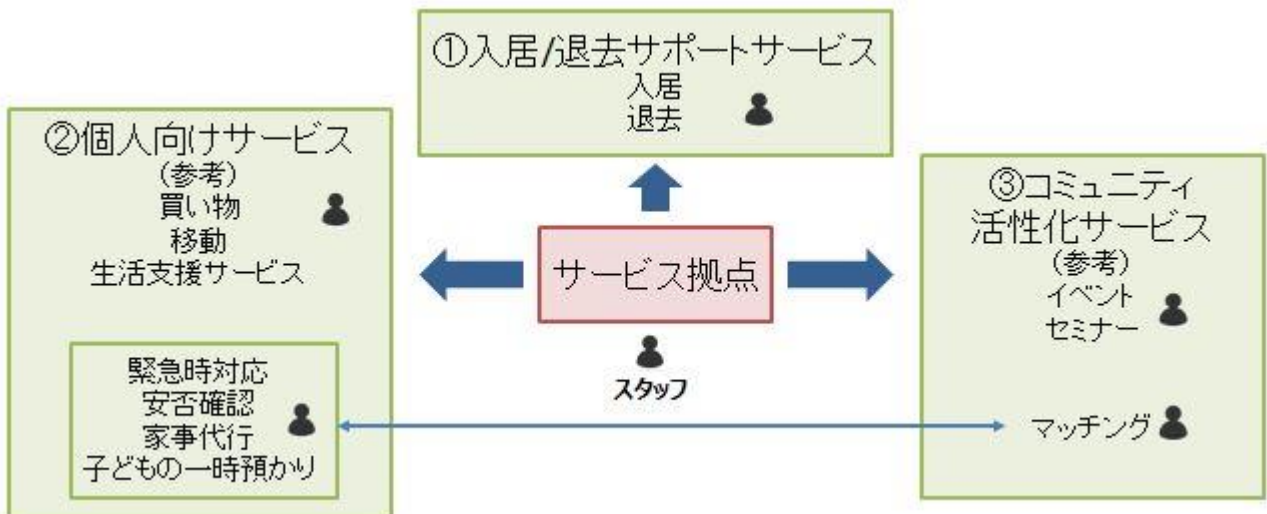
○レークサイド・ヴィレッジゆりはま全体構想



○整備における基本コンセプトの整理

「最期まで暮らす」をコンセプトとし、そのコンセプトを実現していくために、以下に示す、3つのカテゴリーの仕組みを充実させていくことが重要になる。

- ①入居/退去サポートのサービス・仕組み
- ②個人向けのサービス・仕組み
- ③コミュニティ活性化のサービス・仕組み



○サービスコンテンツの考え方

入居者の暮らしは、自分でできることは自分でやる「自助」、友人関係などの1対1の人間関係で支え合う「互助」、複数の人間関係やコミュニティの力で支え合う「共助」、公的制度で支える「公助」、そして事業者が提供する「サービス・サポート」で支えられ、成立する。

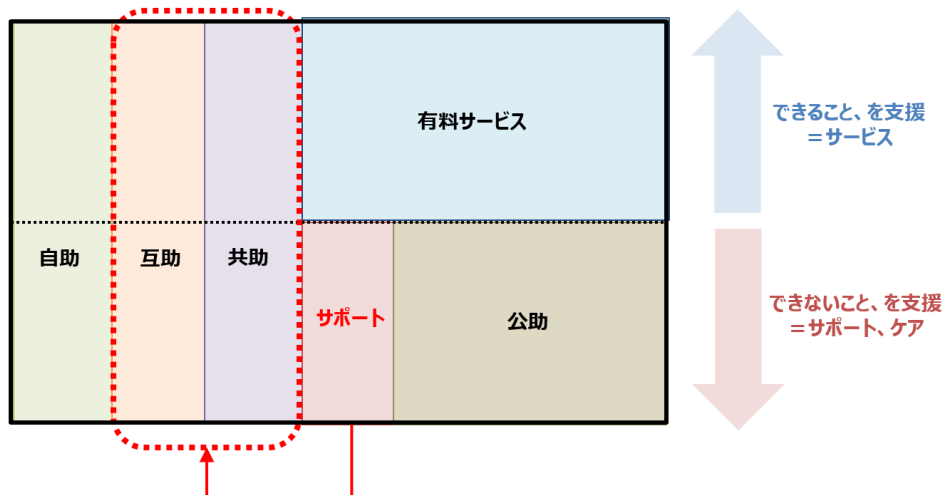
事業者が提供する「サービス・サポート」は、この「自助」、「互助」、「共助」、「公助」では支えきれない部分、漏れてしまう部分を支えるように設計するべきである。

また、ここでさらに重要なことは、「互助」や「共助」で支えられる範囲は、入居者一人一人が持つ人間関係の「弱いつながり」の広がり大きく影響することである。

そのため、入居当初時は、「弱いつながり」を持たなくとも、入居年月を経るに従い「弱いつながり」が広がっていく活動を、運営スタッフの重要な仕事として位置づける必要がある。

運営スタッフは、入居者同士が「弱いつながり」を広げていく、入居者が地域の住民と「弱いつながり」を広げていく、という機会の創出を積極的に行うことが、「互助力」、「共助力」の強化になり、「生涯活躍のまち」を実現することにつながる。

<暮らしの枠組み>



※地域包括ケアでは、介護保険など行政制度は「共助」に入っている。
ここでは、「公助」に位置づけ。

